

2019年8月実績概要(メモ)

(2019. 9. 19)

エチレンの増産とともに、誘導品の生産も定修規模の縮小等から増産品目が多めとなる。

1. 生産動向

イ) エチレン 551, 200トン

前月比 +6.7% (+34,600トン)

前年同月比 +6.7% (+34,800トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	-	-
定修要因等	+8.5%	+7.9%
能力増減	-	+0.1%
稼働率変動	▲1.8%	▲1.3%
生産増減率	+6.7%	+6.7%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月95.3%→当月93.8%←前年同月94.9%

定修プラント：前月1社1プラント→当月1社1プラント←前年同月1社1プラント

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、定修規模の縮小や稼働率要因からHD、PP、塩ビ樹脂、EG、SBR、BR、ベンゼン、トルエン、キシレンなどの15品目がプラス。EOなど2品目はマイナスとなった。

前年比では、定修規模差や稼働率要因からPP、PS、SM、塩ビ樹脂、EG、BRなどの10品目がプラス。LD、塩ビモノマー、SBR、トルエンなどの7品目はマイナスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況(LD、HD、PP、PS)

イ) 生産

前月比では、HD、PP、PSが主に定修規模の縮小からプラスとなったのをはじめ、LDでは定修系列数の増加がある中、稼働率要因からプラスとなった。

前年比では、PP、PSは主に稼働率要因からプラス。LD、HDは定修規模差等からマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比では、夏季休暇に伴う顧客の稼働日数の減少もあり、LD、HD、PP、PSともに二桁減の大幅なマイナスとなった。分野別の出荷状況としては、PEでは前月に各分野とも総じて出荷が大きく増加した代わりに、当月はほぼ全ての分野でマイナスとなったほか、PP、PSでもほとんどの分野で減少することとなった。

前年比では、LD、HDのフィルム分野においてマイナスが続いているほか、当月はフィルム以外の用途で目立った増加が見られず、PE双方でマイナスとなった。PPは射出成形分野の伸びに加えてフィルム分野でも僅かながらの増加がありプラスとなった。PSは総じて各分野での出荷が低迷しマイナスとなった。

ハ) 輸出

ポリオレフィン3樹脂では、本年の4月以降は低調な輸出状況となっている。当月は前月比でLD、HDがマイナスとなったほか、PSでは前月の輸出量が幾分多めであったこともありマイナス。PPのみはプラスとなった。

前年比ではLDがプラスとなったが、HD、PP、PSはいずれもマイナスとなっている。

ニ) 在庫

在庫量は、LD、HD、PP、PSともに増加となった。在庫率(季節調整済)は前月に対して4樹脂で上昇した。在庫水準としては、LD、HD、PSは高め、PPはタイト気味で推移している。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率(単位:ヶ月)	
		7月末	8月末
LD	+27,600	3.2	3.8
HD	+20,500	3.4	3.8
PP	+40,400	2.8	2.9
PS	+14,200	1.5	1.8